

アートと福祉の協働を探る

講演者：ブルース・ダーリング氏

Bruce DARLING Ph.D.

美術史家 アートミーツケア学会理事

- 1973年 早稲田大学大学院文学研究科修士課程修了, MA (芸術学美術史専攻)
1983年 ミシガン大学ラッカム大学院博士課程修了, Ph.D. (美術史学)
1989~1990年 ハーバード大学 日本学研究所研究員
1998~2000年 北海道大学工学研究科 外国人研究員
2000~2003年 文部科学省科学研究費による『老人施設の「生活の質」と芸術の役割』のため欧米各国を視察調査
2009年 九州保健福祉大学教授 (定年退職)

日時：3月24日(木曜日) 午後6時~7時30分

会場：北方圏学術情報センターポルト会議室C(7F)

2010年10月30日、北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院 国際広報メディア・観光学院による公開シンポジウム「地域発・草の根文化の時代」~高齢化や過疎、経済的な疲弊に悩む地域からこそ元気な文化を発信することで、日本は再生します!~が開催されました。ブルース・ダーリング氏は、テーマ導入者の一人として「アートが社会を変える」という基調講演を行いました。その概要を紹介します。

少子高齢社会で、誰もが幸せを感じるにはどうすればよいか。

高齢者をお荷物扱いしないで、いつまで元気で活躍してもらえばよい。実際、周辺を見回すと、カッコイイ年長者がいる。ジャズをやったり、演劇をしたり、山に登ったり、映画をつくったり。工芸・書画・古典芸能の世界にいたっては、匠とよばれ、後輩の指導にあたっているのは、ほとんど70歳を過ぎてからだ。彼らは、好きなことをやっているからこそ、生き生きしているのだ。

その一方で、福祉・医療の現場で日々を過ごす人も多く、彼らの生活は「満足感」(well-being)からほど遠いことも事実である。いかにして、誰もが生き生きとした気持ちで楽しく日々を過ごせるようにするか。その一つの試みとして、今、世界の各地で、医療や高齢者施設などの現場に芸術を積極的に導入することがはじまっている。本研究会では、日本と欧米の先駆的な取り組みを参考にしながら、社会における芸術・文化・デザインの潜在力を語り合う。

<http://kusanone.gsimc.us/details/art>

※参加費は無料ですが、会場の都合上、下記までお申し込み、ご連絡を何卒宜しく願います。尚、当日の予約なしでの参加も可能です。お誘いあわせの上、ご参加をお待ちしております。

お問い合わせ 北方圏学術情報センター PORTO

受付時間 月一金：9:00~17:00 土：9:00~13:00

TEL：011-618-7711 FAX：011-618-7712

E-mail：porto@hokusho-u.ac.jp